

令和 5 年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	39	学 校 名	静岡県立静岡農業高等学校	校 長 名	望 月 康 弘
------	----	-------	--------------	-------	---------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
1	豊かな人間性を育む教育と安全・安心な教育活動の推進	- 定期的な登校指導、挨拶運動の実施。 - 身だしなみ検査初回合格率の全校平均 85%以上。 - 学校生活を含め不安を感じている生徒に対して、安心して生活を送れるように早めに対策を講じる。必要に応じてスクールカウンセラーとのカウンセリングを実施する。 - 相談したい時にいつでも相談できる体制を整える。 - P T A安全委員による街頭指導の実施。 - 千代田消防署と連携した防災訓練の実施。 - 地域防災訓練参加率 80%以上。 - 朝食摂取率年間平均 97%以上を目指す。	○身だしなみ検査初回合格率の全校平均 89.9% 1/15 現在（各学年 4 回実施） ○新入生全員に対する 1 分間カウンセリングを実施した。 ○全学年の生徒に対して学校生活に関するアンケートを実施した。 ○相談室を常時開放した。 ○春・夏・秋・年末の年 4 回ある街頭指導に、交通安全委員の生徒と 12 名の保護者（P T Aクラス役員）が参加し、本校周辺で挨拶及び交通安全を呼び掛けた。 ○2 回防災訓練を行った。例年 2 回目の訓練では静岡市千代田消防署の協力で訓練を行っていたが、本年度は日程が合わず実施できなかった。 ○地域防災訓練は、まだ開催されない地区や、参加者が限定された地区、当日津波警報が発令されて中止になった地区があり、参加率はよくなかった。 ○朝食摂取率調査を 2 回(1, 2 学期)全校で実施した。その結果は 7/12… 92.4%、10/26…95.9%であった。	- 生徒 A - 教育相談 A - 総務 B - 保健 B	○学年による格差は多少あるが、合格率は昨年同様、高かった。先生方の粘り強い指導と生徒の頭髪に関する意識の向上が考えられる。 ○1 分間カウンセリングを実施した。気になる生徒については教員間で情報を共有し見守っている。 ○夏季休暇前に 1, 2 年生に学校生活アンケートを実施した。アンケートに相談が上がってきた生徒は、担任・学年主任が面談を実施した。3 年生には体調面からのアンケートを実施し、実態把握に努め、気になる生徒には声掛けをしている。 ○スクールカウンセラーによるカウンセリングの実施により早期の問題解決に取り組んだ。 ○教育相談室だよりを年 8 回発行した。 ○街頭指導に参加した保護者から、遅刻ギリギリで登校する生徒に対する心配の声があった。生活習慣の改善に向けての呼びかけが必要。 ○静岡市千代田消防署と行う訓練の内容を、再考しなければいけない。 ○来年度以降も、状況を見て判断させたい。 ○1 学期の摂取率が低かったため、2 学期は前日に各クラスの保健委員に朝食摂取の大切さや必要性などを話してもらった。その結果摂取率が上がった。また啓蒙活動としてポスターも作成した。今後も引き続き生徒に呼び掛けるとともに、普段から朝食を摂取しない生徒への個別指導や生活習慣等も指導していきたい。
2	生徒の学ぶ意欲を高め、論理的、科学的思考力の育成と特色ある教育活動の展開	- 漢字、計算力、英単語テストの計画的な実施。 - 平成 30 年告示の学習指導要領への対応。 - 授業参観週間において、B Y O Dを含む I C Tを活用した授業を公開する。 - 年間の研修テーマとして「授業改善のための I C T研修」を県教育センターと連携して実施する。 - 年間貸し出し数を全校で 2500 冊、一人当たり 4 冊以上。 - 芸術鑑賞教室の継続的	○計算力テスト、英単語テストを年間 6 回ずつ、漢字テストを年間 7 回実施した。 ○平成 30 年告示の学習指導要領について、シラバスや年間指導計画の作成支援と取りまとめを行い、県の指導を受けつつ対応を行った。 ○授業参観週間において、I C Tを活用した授業を行った。（6 月） ○8 月に「B Y O Dを始めるにあたって」というテーマで研修を職員全体で行った。9 月の定期訪問では、「授業改善のための I C T研修」の研修を前回に引き続く形で行い、職員全体で更に理解を深めた。 ○授業参観週間において、さらに I C Tを活用した授業を行った。（10 月） ○貸し出し冊数は、2/20 現在、全校で 2,578 冊、一人当たり 4.17 冊であった。 ○9/1 の午後、グランシップにて芸術鑑	- 教科 A - 教務 A - 研修情報 A - 図書 B	○漢字テストと計算力テスト、英単語テストを予定どおり実施した。 ○平成 30 年告示の学習指導要領に関する、本年度対応は良好だった。来年度は、新教育課程が完成年度となり、またクラス減などもあるので、それらの対応が来年度の課題となる。 ○授業やHR活動で I C T活用が着実に定着してきている。今後も I C Tを効果的に活用する授業を更に推し進めていきたい。 ○いよいよ今年度から B Y O Dが 1, 2 年生で本格的にスタートした。Classroom の作成・配信・確認や、外部のW e bアプリの活用など確実に前進しているが、せっかくのデバイスへの投資が無駄にならないように積極的・意欲的な活用を今後も継続的に考えていきたい。 ○全校での貸し出し冊数の目標は、概ね達成することが出来た。貸し出しだけでなく、授業での図書室利用が増えるよう、快適な環境作りや活用方法を考えていきたい。

様式第 3 号

		な実施。 ・意見発表・プロジェクト発表県大会において複数の入賞。 ・農業鑑定競技会全国大会において入賞 3 件以上。	賞教室として、落語・怪談等を含めた寄席の公演を、全校生徒で鑑賞することができた。 ○農業クラブ各種発表県大会（6 月）→意見発表：最優秀 2 名（関東出場）、プロジェクト発表：優秀 1 件。 ○各学系で予選実施、全国(10 月)に 6 名参加。5 名優秀賞。	農業 A	○芸術鑑賞は、リアルな感動を得られると同時に、豊かな感性を育む良い機会となっている。来年度以降も実施していきたい。 ○校内の発表会に向け、各学系でのきめ細かな指導が継続的に行われている。 ○意見発表で関東大会に複数出場できたことは特筆すべき点である。 ○コロナ感染拡大時は放送や録画視聴の校内大会であったが、本年度は体育館にて、全校生を前にした発表が実施できた。 ○農業鑑定の指導・校内運営において、指導の積み重ねにより全国大会への入賞が継続している。
3	キャリア教育の充実と生徒一人ひとりの進路実現	・就職、進学決定率 98%以上。 ・1、2 年キャリア講演会、進路ガイダンス、3 年生就労に関する講話の実施 ・「アグリマイスター顕彰制度」への申請を年 20 件以上すすめる。 ・日本農業技術検定の 2 級合格 10 名以上。	○就職、進学決定率 97.5% 就職内定者 69 名（一般企業 61 名、自己就職 2 名、公務員 6 名）進学者 126 名（四年制 35 名、短期大学 15 名、専門学校 71 名、その他進学 5 名） ○キャリア講演会、就職ガイダンス、進路見学会、面接指導等は計画通り実施することができた。 ○アグリマイスター 前期：プラチナ 1、ゴールド 3 名 後期：ゴールド 1、シルバー 2 名の認定。 ○農業技術検定 第 1 回合格者：2 級 1 名、3 級 124 名 第 2 回合格者：結果待ち	進路 A 農業 A	○就職、進学決定率 97.5%と達成目標に近づいた。進路課、学年部、学系、教科による連携がとれ、組織的に指導ができた。未決定者の進路目標が達成できるよう今後も支援を続ける。 ○1 回目の就職試験の内定率が 95%と昨年度より高かった。求人数は昨年より増加した。 ○進学は県内志向が高いが、本年も昨年同様の傾向だった。年度当初より、進学者への指導を計画立てて対応した。 ○アグリマイスタープラチナ申請が毎年継続。プラチナ認証の生徒に対し、本年度県知事表彰（専門高校等「学業・技能・態度・行動優秀賞」）を受けた。 ○顕彰制度の目的周知について、一層の取組が求められる。（職員・生徒） ○日本農業技術検定の令和 4 年度の実績により、全国での最優秀団体として表彰された（2・3 級）
4	学校行事、部活動、課外活動等に主体的に取り組む生徒の育成	・部活動県大会以上の壮行会実施。 ・部活動の目標と活動成果を共有する地域連携活動の実施。 ・PTA と連携した教育講演会の開催及び静農祭における PTA 模擬店の出店。	○本年度より従来通りの形で、壮行会を実施した。（部活動・農業クラブ） ○部活動の目標については、4 月の部活動オリエンテーションを通じて共有し、活動成果については年度末に報告会を実施した。 ○本年度の教育講演会は、B 2 リーグベルテックス静岡の大石慎之介選手を招き、「夢を叶えるために」という題目で講演を聞くことができた。PTA 総会とは別日ではあったが、PTA 役員を中心に保護者の参加もあった。 ○まだ制限は残る中、ほぼ例年並みに PTA 模擬店を出店した。伸し餅・切り餅・磯辺焼き、フランクフルト、田舎こんにゃくを販売することができた。	生徒 A 総務 A	○全国高校総体で男子ハンドボール・女子ハンドボール部が 3 年連続で東海大会に出場した。 ○2 年の鈴木結菜さんが全国高等学校スポーツクライミング選手権大会に静岡県代表として出場し、予選を勝ち抜いて、決勝進出を果たした。 ○「夢は遠回りしても良い。叶えるまでの時間が大切」、「口」に「+（プラス）」で『叶う』等、魅力的で心に残るフレーズがあり、生徒たちに「夢を叶えるための方法を伝えることができた。 ○今年から新しくお汁粉も始め、大盛況・完売となり、生徒と共に静農祭を盛り上げることができた。
5	産学官や地域との連携・貢献活動等による、農業高校魅力化の推進	・校外でのイベントに積極的に参加する。 ・学校祭・農場販売で積極的な地域交流を行う。 ・委員会等で環境整備に取り組む。 ・次世代へと繋がる研究活動の推進。	○吹奏楽部、生物工学部、食品科学部、いきものがかりや、ボランティア委員会、生徒会役員などで多くの生徒が校外活動に積極的に参加した。 ○全国学校農場協会主催「農業実験実習講習会」（関東）…静岡大学の協力で実施。県内多数の教員の貴重な研修の場となった。 ○静岡大学主催「未来の科学者養成スクール（F S S）」に生徒が参加。 ○J A バンク静岡「担い手育成支援事業」において、伝統作物の栽培及び普及活動、愛玩動物や園芸作物を活用した交流活動、南アルプス由来の植物から単離した野生酵母を用いたパン製造などの研究をすすめた。 ○農業プロダクション「いきものがかり」が静岡県 S D G s スクールアワード 2023 において、高等学校の部優秀賞を得た。	生徒 A 農業 A	○学校祭においては本年度も制限を設けた形での実施となったが、本校生徒、保護者、中学生と保護者を加えると 1800 名程度の規模で学校祭を無事行うことができた。 ○技術の世代継承や新たな知識を得る機会として、研修機会を校外との連携で継続する。なお、各学系の状況、今後の校内の課題をふまえた内容を検討していく。 ○生徒が地域との交流を通して学ぶ機会が再開した中、活動範囲が広がった。この活動をサポートできる環境整備が課題である。 ○他の分掌と連携し、生徒の学習の場と、進路選択やキャリア教育としての位置づけを意識した取組が求められる。

様式第 3 号

6	学校の情報化と校務処理等の合理化推進	・学校行事等は積極的にホームページにアップする。(週 1 ～ 2 回以上を目安とする) ・ S N S を個人情報保護に配慮しつつ適切に活用する。 ・事務処理や会計処理に関する定期的な研修機会の確保と、合理化を図るための業務改善に取り組む。	○ホームページの定期的な更新を行い、その回数や頻度をできる限り増やした。 ○ S N S を個人情報保護に配慮しつつ、適切かつ積極的に活用した。 ○年度前半及び後半の職員会議において、会計処理や財産管理について研修を行った。また、事務室において業務改善活動に取り組んだ。	研修情報 A 事務 A	○学校行事だけにとどまらず、普段の学校生活における生徒の授業や実習の様子などもハイペースで更新することができた。 ○ S N S を適切に活用・配信し、学校広報に一役買うことができた。 ○職員研修を実施した結果、業務の適正化が図られた。今後も繰り返しの研修が必要である。業務改善活動からは、日常業務における合理的な業務処理について検討し実施することができた。
7	教職員の働き方改革とワークライフバランスの推進	・夏・冬休み期間に、休暇取得促進日を設定。 ・定期テスト 2 日目に、定時退勤日を設定。 ・作業目標スケジュールによる業務管理。	○期間中多くの職員が休暇を取得している。農場管理、部活動の大会等もあり、100%の取得は難しい。 ○定時退勤日が定着している。 ○会議などで作業目標スケジュールを使用し、分かりやすい説明を行う等、定着しつつある。	総務 A	○来年以降は休暇取得促進日を増やし、休暇取得の推進を行っていく。 ○定時退勤日だけでなく、平常時でも早く退勤できるように呼び掛ける。 ○作業目標スケジュールを共有するシステムの構築が必要である。
8	教育予算の効果的運用と施設・設備の計画的な維持管理	・学校経営予算の執行率 2 学期末 80%以上。 ・施設設備の安全点検を年 3 回実施。	○学校経営予算執行率 99%は達成の見込み。 ○学期 1 回以上、施設の安全点検を実施した。	事務 A	○計画的かつ丁寧な執行を心掛け、費用対効果を踏まえた執行ができた。経営予算の節約に努めつつ、学校教育活動に支障が発生しないよう予算要求の確認を 2 度行うなど慎重に執行した。翌年度予算編成にあたり、需要を的確に把握し、引き続き丁寧かつ効果的な予算執行に努める必要がある。 ○施設担当と技能員が連携し、日々の安全点検と補修等の対応を行った。特に危険個所が発見された際には迅速に補修を行うことができた。また、洋式化されていないトイレを順次改修するなど老朽化した各施設の改修に努め、生徒、教職員の安全確保に成果をあげた。